

天理台湾学会第30回研究大会、オンラインで開催

金子 昭

天理台湾学会（会長・金子昭）の第30回研究大会が7月3日、オンライン方式で開催された。同大会は、昨年7月に「第30回記念研究大会」として天理大学で開催予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大という事態のため、やむなく昨年の開催は中止、延期となった。今回もコロナの影響のため、大会の規模を縮小し、「記念」という言葉も取って、「第30回研究大会」としてオンライン開催という形となった。日本と台湾から約60名が参加した。

大会では5名の研究発表、そして記念講演が行われた。金子は「台湾社会におけるジェンダー意識の高揚と仏教尼僧の活躍—昭慧法師による社会活動事例を通して」と題して発表。昭慧法師（2021年度庭野平和賞を受賞）の思想と事績について、とくにジェンダー平等の観点から報告を行った。コメントーターは劉靈均・相模女子大学講師を務めた。

記念講演の部では、「台湾文学・台湾原住民文学の現在」と題して、林淇瀟・国立台北教育大学名誉教授による「為台湾歴史と土地書寫—我的後殖民創作心路（台湾の歴史と土地のために執筆する—ポストコロニアル時代における我が創作姿勢）」、楊翠・国立東華大学教授による「兩條回家的路—台湾原住民女性文學的豐富圖景與研究心路（二つの帰路—台湾先住民女性文学の豊かな光景と研究姿勢）」の二つの講演が中国語で行われた。

第3回 East Asian Society for the Scientific Study of Religion (EASSSR: 宗教の科学的研究のための東アジア学会) で発表

堀内 みどり

標記学会の年次大会が、韓国の Jeju National University（済州大学）が担当校となり、7月16日～18日の日程で、リモートと対面で行われた。開会式及び大会の記念講演と閉会式はYouTubeで配信され、研究発表はオンライン・ミーティングを使用しての開催となった。大会のテーマは「Religion and Peace in East Asia: The Roles of Religion in Times of Crises」（東アジアの宗教と平和：危機の時代における宗教の役割）で、堀内はDaejin大学のLee教授が企画した「East Asian New Religious Movements: Beyond the Basics」（東アジアにおける新宗教運動：既存概念を超えて）に参加し、「“Caring” and Social Activities by Religious Bodies: A Case Study of a Local Tenrikyo Church（宗教団体による「ケア」と社会活動：天理教の一地方教会の活動を通して）」と題して発表した。虐待児童を減らし、虐待事象を減少させたいと取り組んでいる教会長の活動と理念を紹介しつつ、天理教の教会が社会資本として社会の中で活用できるのではないかというこの教会長の提言を参考に、全国に散在する天理教の支部よりも、より小さくまとまった地域範囲における活動が、現前する社会の課題に対応可能な役割を果たせる可能性があることを述べた。系統を超えた連携、知識の共有、地域特有の問題（課題）への協力的アプローチなどを共通の認識とす

る必要がある。このパネルでは、他に、大巡真理会（Daesoon）、一貫道（Yiguandao）、及びカオダイ教の教義及び活動についての発題が行われた。

第341回研究報告会（7月21日）

「資料読解の試み—『特高月報』、『思想月報』に見る天理教」

金子 昭

昭和初期の天理教は、戦時体制の下、国家から厳しい監視と干渉が行われていた。その様態を克明に伝える文書が『特高月報』（内務省警保局刊行）と『思想月報』（司法省刑事局刊行）である。これらの文書は当時、当局により極秘扱いにされたが、戦後になって復刻版で刊行されている。本発表では、そこに掲載された天理教についての記述を紹介しながら、当時の国家権力が天理教をどのように見ていたかを報告した。

天理教に対する当局の眼差しが急に厳しくなるのは、昭和12年頃からである。それは「天理本道」問題の余波を受けたところが大きい。この前後から、特高警察による監視が厳格なものになってくる。昭和13年12月、天理教は「諭達第8号」を發布し、いわゆる「革新」の時代に入る。しかし、その後も教団への監視は続いた。「革新」がその通り実行されているかどうか、思想検事が教会本部に聞き取り調査に入るなど、国はたえず天理教の動向に注意を払っていたのである。天理教にとって、昭和初期のこの時代は、明治中期と並ぶ過酷な迫害・受難の時代であった。

『グローバル天理』 メール配信のご案内

当研究所では、『グローバル天理』を毎月発行し、関係各所やご希望の方々へ配布・配送しておりますが、ペーパーレスでのメール配信を開始しました。

つきましては、『グローバル天理』（PDF版）のメールでの受け取りを希望される場合、および紙版の『グローバル天理』の配布・配送を中止される場合は、下記の当研究所メールアドレスへご連絡ください。

なお、当誌はおやさと研究所のホームページでも公開しており、そちらでご覧いただくことも可能ですので、併せてご案内いたします。

皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

連絡先：

天理大学 おやさと研究所『グローバル天理』編集部

E-Mail: glocal@sta.tenri-u.ac.jp

URL: <https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/index.html>